

～下田のデキゴト～



12/ 2 水中ごみ約1トンを回収

環境省「ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」の支援を受け、NPO 法人 MORE 企画（伊東市）と共催で、昨年に続きプロダイバーによる下田港水中清掃を実施しました。市内外の関係機関やボランティア約 50 名が参加しました。



12/11 明日から変わる取組みを

蓮台寺区公会堂にて、元農研機構近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究チーム長 井上雅央氏を講師に、鳥獣被害対策講習会を行いました。少しずつでも継続して取り組む大切さと、地域で気づける鳥獣被害対策について講習いただきました。



12/15 教育委員に西川氏を委嘱

下田市教育委員会委員として、西川紀栄氏を委嘱しました。任期は、令和7年12月14日～令和11年12月13日です。市の教育・文化・スポーツ等に関する基本方針の決定や重要事項を審議していただきます。



12/ 2 南豆の歴史を後世に②

「人が作った木彫を聖なるみほとけにする方法～伊豆の事例を中心に～」と題し、上原美術館上席学芸員、県文化財保護審議会委員 田島整先生が講演されました。約40人が聴講し、木彫がみほとけとなる経過について解説いただきました。



12/ 7 4,709 人が地域防災訓練に参加

自主防災会を中心に市内各地で防災訓練を実施しました。担架による搬送訓練や初期消火訓練、ドローンを活用した現場確認訓練などを通じて、自助・共助の重要性を確認するとともに、地域の方同士の交流の場となりました。



12/15 年末の交通安全県民運動早朝一斉街頭指導

年末の交通安全県民運動（12月15～31日）の実施に合わせ、早朝一斉街頭指導を行いました。小中学校・各行政区等の協力による街頭指導や、伊豆急下田駅前で広報、啓発品の配布等を行いました。

12月の できごと

11月30日～1月4日 アロエの花まつり
1日 温泉健康増進プログラム
5日 第26回静岡県市町対抗駅伝競走大会
下田市選手団壮行会

6～7日 空き家バンク presentsDIY 講座①
12日 体験型観光推進セミナー
『開国の港町「下田の物語と自然」が
生み出す高付加価値観光への挑戦』

※掲載情報は、12月19日時点

地域子育て支援センター通信



2日(月) 交通安全教室
3日(火) 鬼さんと遊ぼう
4日(水) めだかルーム
7日(土) 開館日
9日(月) 体育館で遊ぼう
場所：市民スポーツセンター
12日(木) 誕生会
13日(金) わくわくタイム
16日(月) 発育測定・育児相談
保健師・栄養士来所
21日(土) 開館日
25日(水) あひる・うさぎルーム
26日(木) おひなさま製作
27日(金) おひなさま製作
※予定は変更になる場合があります。
詳細は子育て支援センターまでお問い合わせください。

問合せ先：地域子育て支援センター ☎2200

新年あけましておめでとうございます。
ご家族で穏やかなお正月をお過ごしのことと思います。
今年もお子様の健やかな成長を保護者の皆様と一緒に温かく見守り支援していきたいと思ひます。また、育児相談も随時行っております。
利用者の皆様に安心してきていただき、楽しい時間をすごしていただけるよう、スタッフ一同お待ちしております。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



誕生会



クリスマス会



お出かけ広場



こども園交流

こんにちは、市長です

「土を耕す」と文化



巻頭に、地域づくりには、土壌を肥沃にすることが肝要だと書きました。ここでは、その詳細を記述します。
土地を耕すことを英語で cultivate といいます。この言葉には教養をつける、という意味もあり、名詞の culture は栽培とともに、教養や文化、文明とも訳されます。地域づくりとか地方創生の取り組みの要諦はまさしくここにあると私は考えます。人口が大都市へと移動するのはどうやら社会の必然らしく、黒澤明映画「羅生門」でも、都に行けばなんとかなる、と平安の昔から人々が考えていたことが見てとれます。
令和八年の今も、相変わらず TOKYO は国内外からたくさんの人々を引き寄せる強い磁力をもっています。
一方、全国的な少子化により、地方のまちの空洞化が顕在化し、多くの自治体で各種取り組みが展開されています。移住してきてくれたら助成金を支給する。規制緩和して企業を誘致する。子どもや子育て世帯に手厚く助成する、など。これらの直接的なアプローチが過熱して、今やブレイク合戦による地方間の人口の奪い合いの様相を呈している、と警鐘を鳴らす有識者も少なくありません。
こうした施策の是非を論じるものではありませんが、それらの基底に忘れてはならないものがあると私は考えます。それが、前述の土を耕すことであり、文化とか哲学などと言ひ換えても良いと思います。大人である私たちがしっかりと土を耕す営みをする。そうして子どもたちはその姿を見ながらこのまちの culture を心や身体に染み込ませ成長していくものだと思います。
下田市特有のグローバルな歴史やローカルな魅力。これらのグローバルな資源をこれからのまちの culture を、ティックの価値を輝かせて、世界中から多くの人々がやって来るまちを目指していきたいと思ひます。